

もりおか
森岡古窯跡群

調査の経過 本遺跡は、大府市森岡町上ノ山西地内に所在し、知多半島の脊梁をなす丘陵の北東部分に位置する。ここは「知多古窯跡群」と「猿投山西南麓古窯跡群」の接点でもあり、近辺には多くの中世古窯跡が確認されている。発掘調査は、県道健康の森線建設に伴うものとして、350㎡を96年4月から6月にかけて実施した。

調査の概要 調査開始当初は、崖面に灰層の断面が露呈しており、客土も厚く堆積しているため、残存状態は良好とは思えなかった。しかし、調査を進めていくと、東西に隣接して2基（仮称A窯・B窯）分の前庭部（築窯時排出土盛土）及び灰原が確認された。灰原もほぼ東西に二分されることが判明した。A窯に伴うものは、A窯前庭部より西方部分、B窯に伴うものは、A窯前庭部直下より東方部分に展開する。この灰原の検出状況から、B窯が先行して築窯され、廃絶後にA窯が形成されたことになる。

出土遺物の大半は灰釉系無釉碗・皿類であるが、これ以外の遺物として、肩部に篋描き文様を施した壺、三筋壺、各種鉢類がある。いずれも12世紀中葉のものと考えられる。

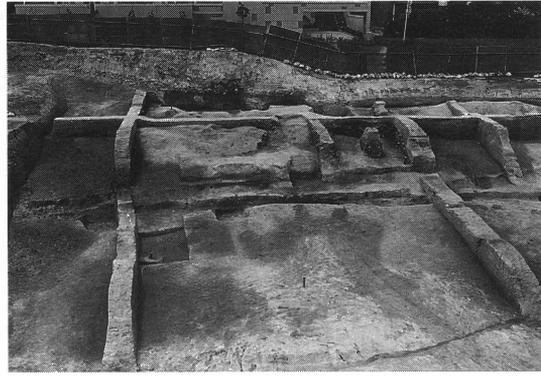
今回の調査では窯体は確認されなかったが、特殊な遺物が出土したことにより、本遺跡の性格を考えるうえで、さらに、この地域の窯業生産体制及び歴史性を考えるうえで重要となるであろう。
(中野良法)



第1図 調査区位置図 (1:2500)



灰原検出状況



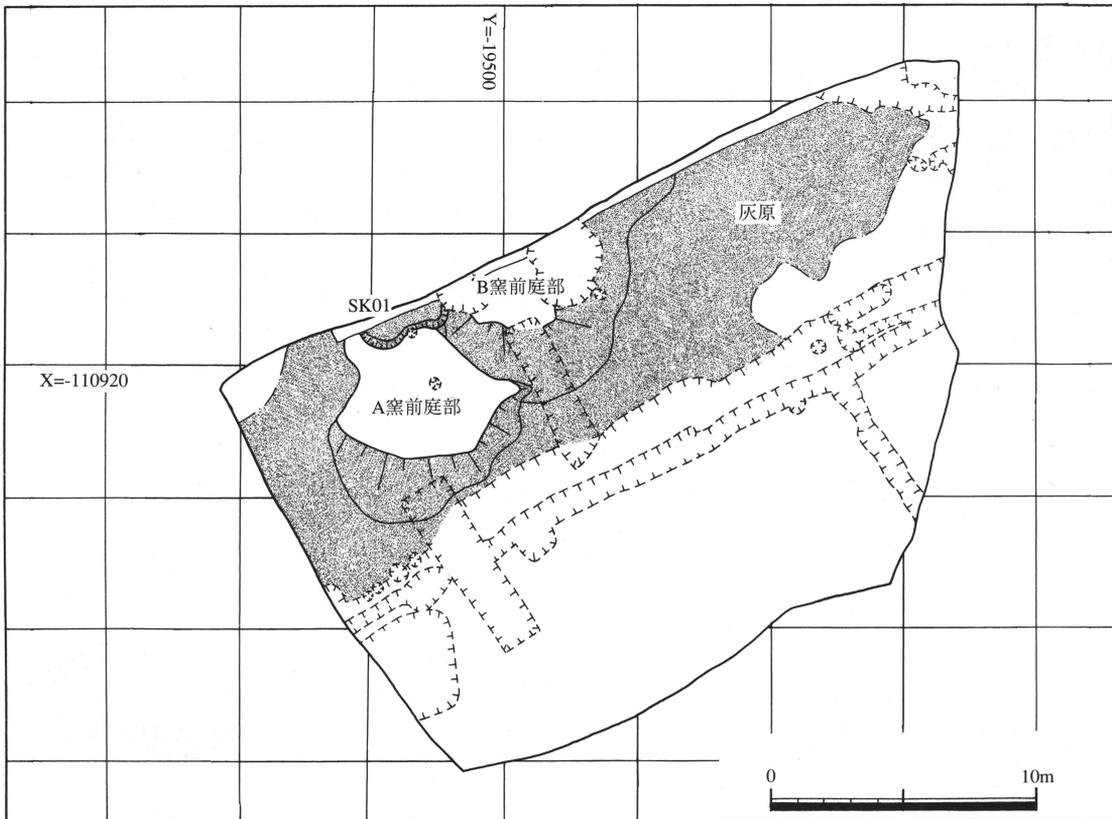
A窯・B窯前庭部



A窯・B窯前庭部土層断面



遺物出土状況



第2図 遺構配置図